



1

第1巻 / ~第1話「生きた兵器」~

大津島

志願兵が、実状を何も知らされず、大津島に連れて行かれるシーン。誰もが、不安を感じどこに行くのかも分からなかった。

2

第2巻 / ~第9話「別離の海」~

港

11月8日、仁科中尉が搭乗する潜水艦が出航。渡辺は仁科に前夜、「貴様は生きろ」と告げられる。

3

第1巻 / ~第6話「幻の命」~

工場跡地

基地着任後2週間目。出撃を1ヵ月後に控え、誰もが不安の中、「回天」の操縦などを学ぶ。

7

第1巻 / ~第3話「棺の鼓動」~

海岸

渡辺と関口が、特攻兵器「回天」について語り合うシーン。搭乗することへの不安と「回天」そのものに対する不信感が描かれている。

4

第1巻 / ~第2話「創案者の沈黙」~

トンネル

「回天」を、発射試験場に運びこむシーン。隊員達は、ここで改めて自分達が戦争の真っ只中にいることを確信する。

5

第1巻 ~第7話「絶対なる壁」~
第1巻 ~第5話「遺書」~

回天記念館

黒木大尉が殉職された、「回天」の中に渡辺が、初めて乗るシーン。その中には、黒木大尉の最期が、刻銘に残されていた。

6

第6巻 / ~第42話「頭上」~

魚雷見張所跡

主人公渡辺が、見張所にて自問自答。ここで、本人の決意を固める。実家の空襲による壊滅を知る。

8

第1巻 / ~第2話「創案者の沈黙」~

魚雷発射試験場

仁科中尉による、実機訓練。予科練生達は、初めてそのすごさを垣間見る。渡辺も、追跡艇にてその後を追う。

9

第6巻 / ~第43話「何者にもなれず」~

砲台跡地

渡辺が敵空襲隊を、撃ち落とそうとする。周りのものは、それを必死に止める。彼の心の悲壮感が伝わるシーン。



「回天」という名は、創案者の一人、黒木大尉が「天を回し、日本を鎧地から救う兵器」という意味から名付けた。

全長	14.75m	直径	1m
炸薬	1.55m	耐圧深度	80m
航続力	30ノットで23km 10ノットで78km		

浮上時は潜望鏡で外部を見ることが出来るが、潜航中は潜望鏡が使えないため、海図とゲージの数値で操縦する。

日本海軍が使用していた「九三式魚雷」を改造した一人乗り(訓練時は二人で搭乗することがあった)の海中特攻兵器。潜水艦を母艦とし、戦地へ行き、攻撃を仕掛ける。

「回天とは？」

漫画家
さとう しゅうほう
佐藤 秀峰

回天は第二次世界大戦末期に実在した特攻兵器です。魚雷を改造した潜水艇に搭乗員が乗り込み、敵艦に体当たり攻撃を行なうというもので、一度発進すれば生還率は0%でした。そして、その回天隊基地があった場所のひとつが、山口県周南市の大津島です。漫画「特攻の島」は、大津島を舞台に回天の若き搭乗員の生き様と苦悩を描いた作品です。ぜひ現地を訪れ、70年前の若者に思いを馳せてください。

Profile (プロフィール)

1973年 12月8日生まれ
北海道出身
北海漫画製作所 代表
代表作
「海狼」「ブラックジャックによろしく」
「特攻の島」